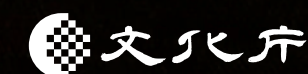
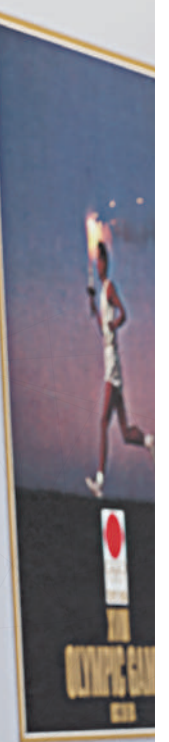
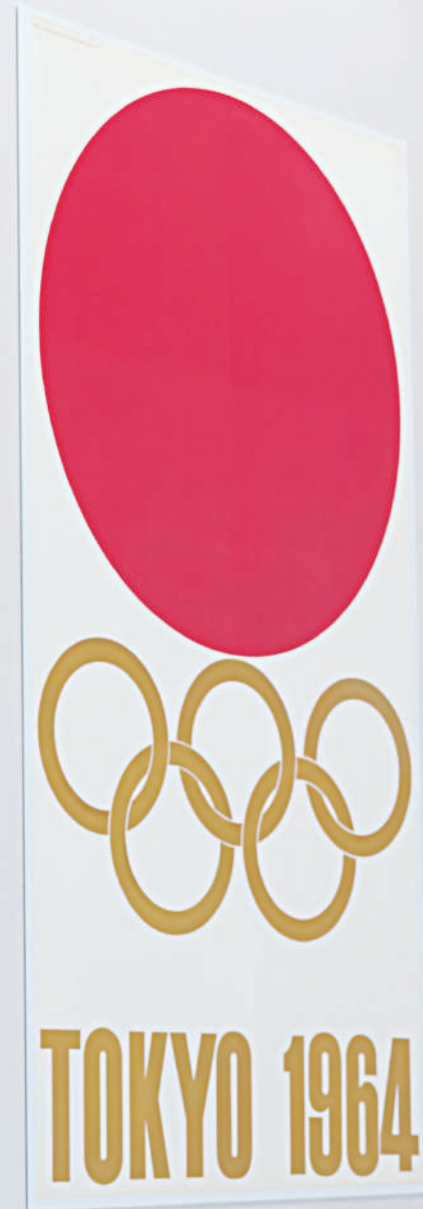
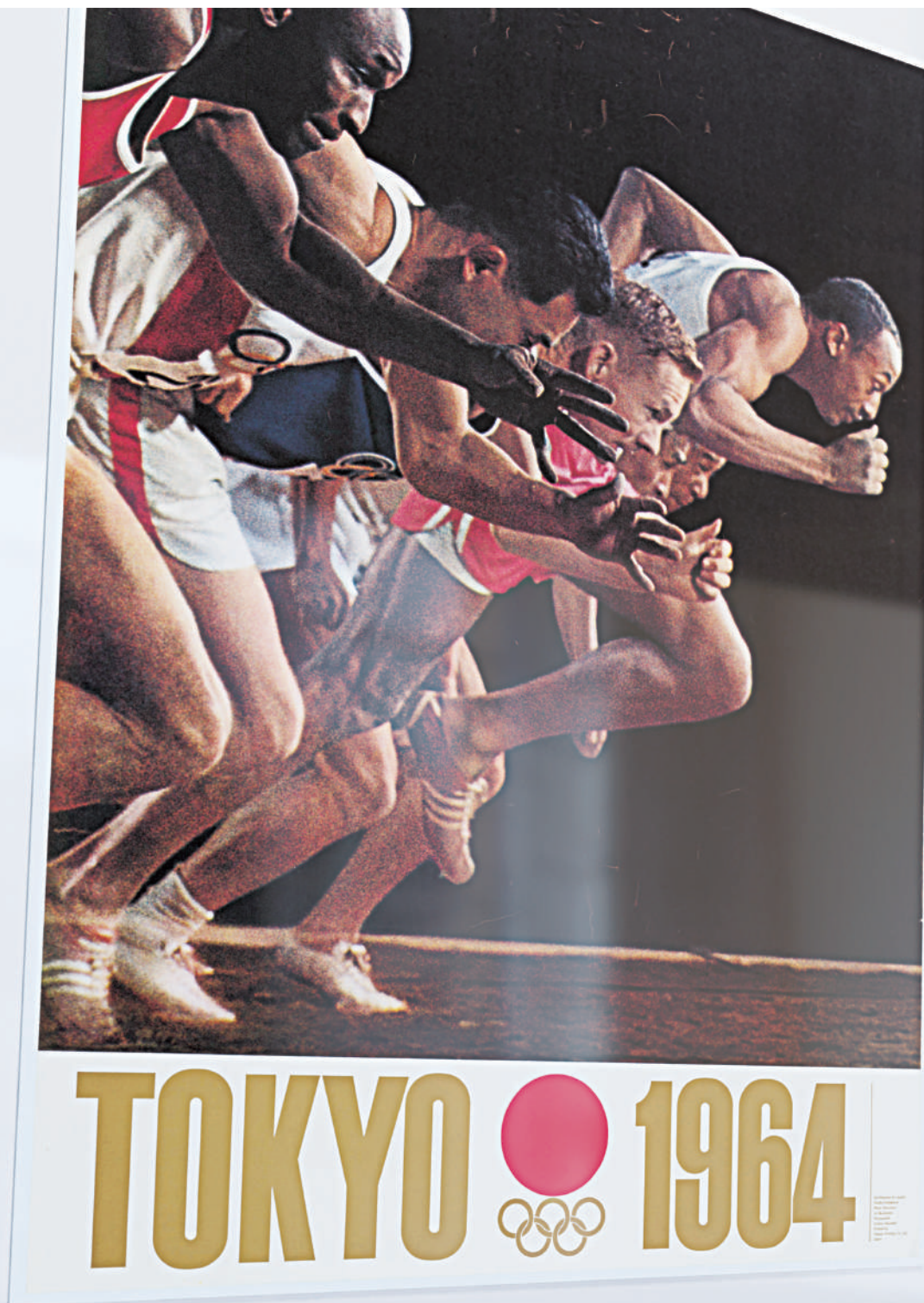




スポーツ ミュージアムの 連携による スポーツ レガシーの 継承・啓発プロジェクト

実績報告書





INDEX

目次

はじめに ————— P. 3

概要 ————— P. 4

実績報告

事業1 スポーツミュージアムのネットワーク化 — P. 5

事業2 人材育成プログラムの構築 ————— P.11

事業3 スポーツ文化財の保存・活用方法の確立 — P.17

おわりに ————— P.23

組織 ————— P.24

はじめに

本書は、令和2年度文化芸術振興費補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に採択された「スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト」（以下「連携プロジェクト」と記す）の実績報告書である。

「支援事業」は、博物館がもつ専門的機能を生かした特色ある取り組みを対象に平成30年度から実施されてきた。本連携プロジェクトは、博物館の情報発信と相互連携、大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発、文化財や文化・自然資源の新たな保存管理・活用の手法の開発を目指す事業として、対象に採択された。

平成27年から29年度まで、秩父宮記念スポーツ博物館が中核館となった事業「スポーツミュージアム連携・啓発事業」が文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択され、継続的に実施された。「スポーツミュージアム連携・啓発事業」は、日本のスポーツ文化の発信地を創出することを目的に、地方の博物館、教育機関やスポーツ関係団体等と連携し、巡回展事業等を行う内容であった。所蔵資料を各地で紹介するとともに、その地域に埋もれていたスポーツ資料を発掘する機会にもなった。その後は連携機関から「中京大学スポーツミュージアム」「日本オリンピックミュージアム」などの相次ぐ開館があり、スポーツ文化が恒久的に発信される場の普及につながった。

一方、国内の多くのスポーツミュージアムから、収集、保存、公開に関する業務に専門学芸員が十分に配置されていないという状況が聞かれ、コレクションに関する知見や経験の蓄積を共有できる連携ネットワークの構築が求められた。特に、東京2020大会が開催された後に残される多くの関連資料を散逸させることなく、日本スポーツ界のレガシー（文化遺産）として意味付け、活用する方法を考えることが急務であるとの認識が共有された。

また、国内のスポーツミュージアムの活動が海外に十分に周知されていないという課題もある。2019年に開かれたICOM京都大会の考古・歴史博物館委員会において、国際的なスポーツミュージアムに関する調査ワークショップの取り組みが報告された中で、日本のスポーツミュージアムの情報がつかめないという意見があった。将来的な海外のスポーツミュージアムとの連携を見据え、積極的な情報発信を図ることも必要であろう。

こうした諸課題をふまえ、秩父宮記念スポーツ博物館を中核館とした新たな事業として、本連携プロジェクトが立ち上げられた。

周知のとおり、本連携プロジェクトが採択された直後に新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が発出された。そのため対面式の会議やミーティング、現地調査やイベント類の計画が大幅に制限され、目的を達成するための実施方法について再検討を迫られることとなった。しかしながら、オンライン形式での打合せや学生とのワークショップなどを通して、新たな生活様式の中でスポーツミュージアムの可能性を考える契機にもなった。

最後に、本連携プロジェクトの実施にあたってご協力いただいた各機関、各位に心より御礼申し上げます。

スポーツミュージアムの連携による
スポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト
実行委員会 事務局

概要

本連携プロジェクトは、スポーツミュージアムが連携することで、日本スポーツ界のレガシーを継承・啓発していく場としてミュージアムが持続的に機能する方法を確立し、文化遺産としてのスポーツレガシーに対する社会全体の共感を醸成していくことを目指すものである。

「スポーツ」は人々の生活文化や社会と密接に関わるものであるが、スポーツに関する資料が文化遺産（スポーツ文化財）、あるいは社会の貴重な財産であるという認識や、それらを扱うスポーツミュージアムの重要性についても、広く共有されているとはいえないだろう。それはスポーツ資料やスポーツミュージアムの可能性について十分な議論がなされていないことに起因すると考えられ、国内のスポーツミュージアム関係者およびスポーツの研究者らとの議論の場が求められる。

そこで本連携プロジェクトでは、秩父宮記念スポーツ博物館、日本オリンピックミュージアム、札幌オリンピックミュージアム、長野オリンピックミュージアム、中京大学スポーツミュージアムが連携し、文化遺産としてスポーツレガシーを継承・啓発するための持続的な場の確立を目指すこととした。

そのうえで、スポーツ資料をレガシー（文化遺産）として継承していくために右記の3点を軸に事業を実施することとした。

1. スポーツミュージアムのネットワーク化

この事業では、全国のスポーツミュージアム関係者による「スポーツミュージアム関係機関連絡協議会」（仮称）の将来的な立ち上げを目指し、そのスタートアップ事業としてシンポジウムを開催するものである。同時に、その実現にあたって国際学術会議等に参加するなどし、日本のスポーツミュージアムの現状の発信に努める計画である。

2. スポーツミュージアム人材育成プログラムの構築

この事業では、持続可能な場の構築のために今後のスポーツミュージアムを担う人材育成を目的としている。展示会の準備やワークショップ等の実習体験が、学生たちのみならず本事業に参画するミュージアムにとっても意義深い経験となり、継承されていくことを目指すものである。

3. スポーツ文化財の保存・活用方法の確立

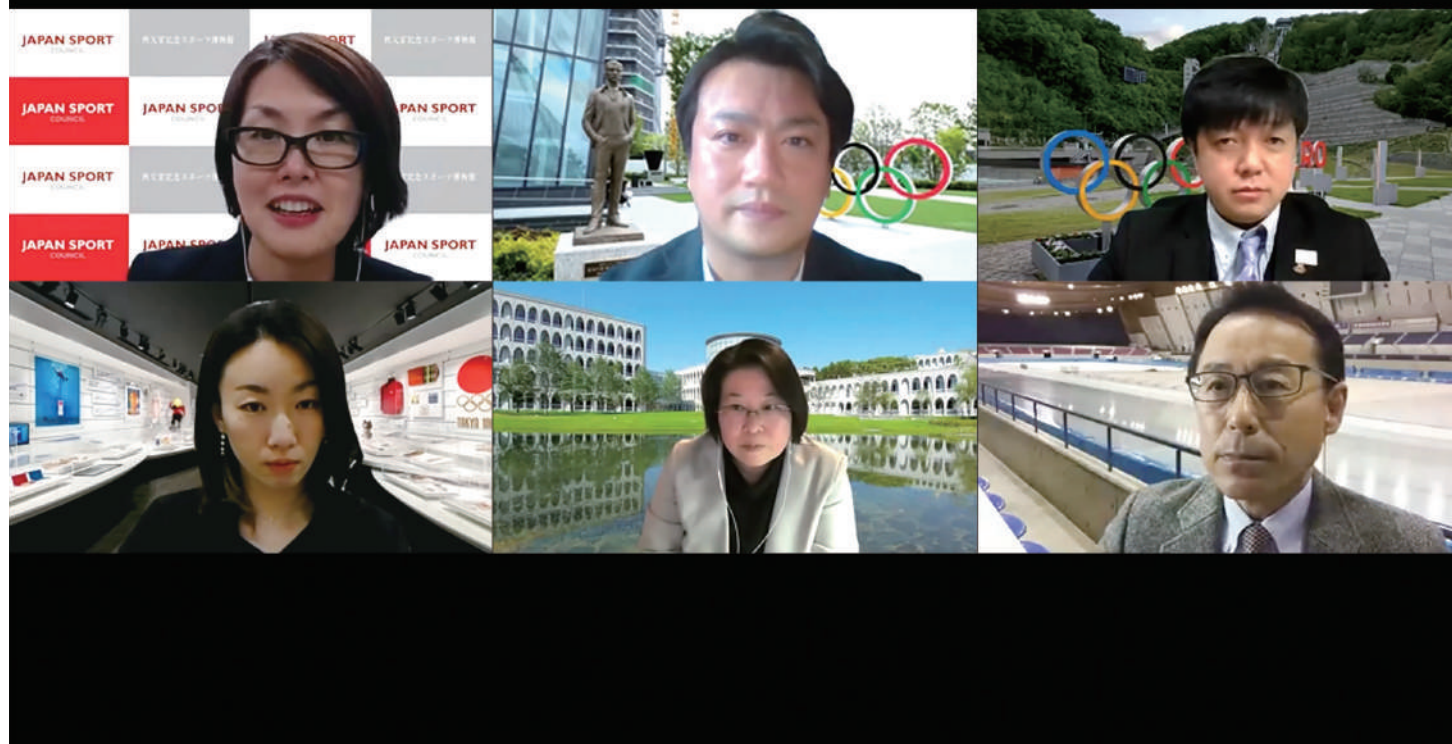
この事業では、過去のオリンピック資料やスポーツ文化に関わる情報収集と調査を行う。東京2020大会やその後もスポーツビッグイベントの度に生み出される大会資料の整理・活用方法の確立をめざし、資料の保存や活用状況についての関係者への聞き取りや調査を行い、東京2020大会後のレガシーの意味付け・活用に生かす計画である。

以上の事業を実施してきたことの成果と課題について次章で報告する。



右：秩父宮記念スポーツ博物館長野巡回展
（2018年1月27日、長野オリンピックミュージアム）
左：人材育成事業として実施した文書資料の
デジタル化作業（2016年2月8日、中京大学）

1 スポーツミュージアムのネットワーク化



パネルディスカッション（2021年1月29日収録、2月20日配信）

概要

本事業では、国内のスポーツミュージアムが今後連携していくためのスタートアップとして共同シンポジウムを開催し、各館の情報共有を行うとともに、これからの展望について議論した。当初は、2020 年度夏に東京国立博物館で開催が予定されていた企画展「スポーツ NIPPON」と連携させたイベントとして計画していたが、オリンピック東京 2020 大会延期に伴って同展覧会も開催延期となったため、シンポジウムは単独のイベントとして開催した。これは、次年度以降に「スポーツミュージアム関係機関連絡協議会」（仮称）を立ち上げるためのスタートアップ事業と位置付け、広く全国のスポーツミュージアム関係者に参加してもらうシンポジウムを目指した。

また、国内スポーツミュージアムの各館の情報を、国外にむけて発信していくために、「2020 横浜スポーツ学術会議」および「国際スポーツ史学会（札幌）」に参加し、日本のスポーツミュージアムの現況を発信しつつ、国際的なスポーツミュージアムの動向をつかんだ。これらの国際会議への参加は、海外のスポーツミュージアム関係者

との情報交換も意図したものだったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、いずれもオンライン形式の開催となり、実空間における関係者との直接的な関係構築には至らなかった。こうした点を補うべく、本プロジェクトの連携各館の英語による情報を WEB サイトを通じて発信し、本プロジェクトの国外関係者への認知度を高めるように努めた。

実施実績

① 国際学術会議

国際体育・スポーツ史学会札幌大会
(ISHPES Congress Sapporo 2020)
会期 2020 年 8 月 22 日（土）～ 8 月 23 日（日）

参加形式：オンライン
発表者：新名佐知子（秩父宮記念スポーツ博物館）
発表内容：The Preservation and Use of Sports-Related Materials In Japan
参加者：新名佐知子・木村一貫・青木祐一（秩父宮記念スポーツ博物館）、松丸喜一郎（日本オリンピック委員会）

2020 横浜スポーツ学術会議
(The 2020 Yokohama Sport Conference)
会期 2020 年 9 月 8 日（火）～ 9 月 22 日（火）

参加形式：オンライン
参加者：新名佐知子・木村一貫・青木祐一（秩父宮記念スポーツ博物館）、松丸喜一郎（日本オリンピック委員会）、下湯直樹・榊淵彰太郎（日本オリンピックミュージアム）

② シンポジウム「スポーツミュージアムネットワーク」

期日 2021 年 2 月 20 日（土）

開催形式：オンライン
メッセージ：室伏広治氏（スポーツ庁・長官）
基調講演：栗原祐司氏（京都国立博物館・副館長）
パネルディスカッションパネラー
来田享子（中京大学）
伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）
山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）
田口和男（長野オリンピックミュージアム）
モデレーター：新名佐知子（秩父宮記念スポーツ博物館）

③ 検討会議

2020 年 9 月 3 日（木）

来田享子（中京大学）
伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）
山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）
田口和男（長野オリンピックミュージアム）
新名佐知子・木村一貫・青木祐一・須藤順子・清水邦俊・河合優利佳・笹沼亜紀子（秩父宮記念スポーツ博物館）

2020 年 10 月 22 日（木）

伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）
山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）
新名佐知子・木村一貫・青木祐一・須藤順子・清水邦俊・河合優利佳・笹沼亜紀子（秩父宮記念スポーツ博物館）

2020 年 11 月 12 日（木）

来田享子（中京大学）
伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）
山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）
新名佐知子・木村一貫・須藤順子・清水邦俊・河合優利佳（秩父宮記念スポーツ博物館）

2021 年 1 月 29 日（金）

来田享子（中京大学）
伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）
山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）
田口和男（長野オリンピックミュージアム）
新名佐知子・木村一貫・青木祐一・清水邦俊・河合優利佳（秩父宮記念スポーツ博物館）

④ WEB サイト情報発信

スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト WEB サイト
(本プロジェクトの構成館の紹介と実績報告の特設 WEB サイト)

<https://www.jpnsport.go.jp/Portals/0/sportmuseumnet/>

概要

8月に行われた国際体育・スポーツ史学会札幌大会 (ISHPES Congress Sapporo 2020) では、本事業の視点から1件の発表を行った。また同会議と9月開催の 2020 横浜スポーツ学術会議 (The 2020 Yokohama Sport Conference) を視聴した。当初は札幌と横浜を会場に開かれる国際会議であること

発表内容概要

表題 「The preservation and use of sports-related materials in Japan（日本のスポーツ資料の保存と活用）」

発表者：新名佐知子（秩父宮記念スポーツ博物館学芸員）、栗原祐司（京都国立博物館副館長）

趣旨

東京2020大会を契機に、スポーツ文化を多角的に紹介する機会が増えた。資料保存や利活用、新たな枠組みの構築という視点において、スポーツミュージアムは今後、どのような役割を果たすべきか。発表では次の3点について検討した。

1. オリンピック・パラリンピック大会のスポーツ文化への影響
2. 日本のスポーツ資料と保存状況
3. スポーツミュージアムのネットワーク構築

現在、資料の保存施設（博物館や資料館）の設置数や、資料種（実物資料と情報資料）の件数は多岐にわたっている。一方で、スポーツ分野に特化した専門職員（学芸員やアーキビスト、図書館司書など）の人員不足から、資料保存の基盤の脆弱さといった問題が生じている。

スポーツ資料の保存基盤の脆弱性という課題を克服するために、スポーツミュージアムのネットワークの構築こそが急務である。ミュージアム間の連携体制づくりにおいて、秩父宮記念スポーツ博物館はその拠点となるべく取り組みを始めている。スポーツ文化に関する持続可能なコンソーシアムの結節点としての役割を果たすことが、秩父宮記念スポーツ博物館の再開館のカギになるだろう。



発表者(左)と発表資料(秩父宮記念スポーツ博物館の収蔵庫)

レビュー①

ISHPES Congress Sapporo 2020

ISHPES(国際体育・スポーツ史学会)の2020年会議として、「スポーツ史と学際性:東京オリンピック・パラリンピック2020を機に考える」を大会テーマに、北海道大学を主会場としてオンライン形式で開催された。日本のスポーツ博物館の分析をはじめ、1964年東京大会および1972年札幌冬季大会をはじめとするオリンピック大会の社会的影響に関わる研究などは、本連携プロジェクトが今後分野横断的にネットワーク化を進めていく上で参照される。

レビュー②

The 2020 Yokohama Sport Conference

ICSSPE(国際スポーツ科学・体育協議会)の2020年会議として、「多様な人々が共に生きる世界をめざして:体育・健康・スポーツ科学の貢献」をテーマに、横浜市を主会場としてオンライン形式で開催された。ISHPESでの発表に続き、秩父宮記念スポーツ博物館からスポーツミュージアムの運営について、また中京大学からスポーツミュージアムでの実践や、1964年東京大会プログラムの研究発表が行われた。

主な発表

タイトル	発表者
Analysis of the Sports Discourse in Japanese Newspaper Reports: Focusing on the function of the term "asurito(athletes)"	Masaru Ishii
Ryottaro Azuma's Involvement in Sports during the Early Stage of Asia-Pacific War : Based on Ryottaro Azuma's Diary	Sakita Yoshihiro
The Impacts of the 1964 Summer on a Local Community	Masayuki Takao
Current Situation and Challenges Faced by Physical Education and Sports History in Japan	Teruyuki Yahaba Yoshihiro Sakita
Current Situation and Challenges Faced by Physical Education and Sports History in Japan	Shinichiro Tanaka Tatsuya Deguchi Yoshihiro Sakita Makoto Fujimoto
THE TOURIST LIBRARY: TOKYO 1940 AND THE DISSEMINATION OF JAPANESE CULTURE	Devena Haggis
What is "Navy Warball"? History of Japanese Original Ball Game during World War II	Takuya Kumazawa
A Historical Analysis of the Winter Olympic Games from the Lens of the Sustainable Development Goals: The Cases of the Two Bids for the Sapporo Winter Olympic Games.	Keiko Ikeda
Expansion of Urban Gentrification through the Olympics: A Case Study the XI Olympic Winter Games in Sapporo	Shun Ueta
The Preservation and Use of Sports-Related Materials In Japan	Sachiko Niina, Yuji Kurihara
Romance of Three Kingdom of South Korea, China and Japan at the Olympic Games	Young-Il Na
The Participation of Japan in Paris 1924 Olympic Games after the Great Kanto Earthquake of 1923	Taro Obayashi
Local Curling in the Okhotsk Region in Hokkaido from ' Bamboo brooms ' to the 2018 PyeongChang Winter Olympic Games.	Yoko Yamamura
Rethinking Extreme Sports in the Tokyo 2020 Olympic Games: Lifestyle Sports and Authoritarianism.	Shuhei Tonozuka
The Current Situation of Sports Museums in Japan: On the Basis of "A List of Sports Museums in Japan" (2000)	Yoshinori Watanuki, Gen Fukui, Tokuma Matsunami
Educational, promotional and inspirational activities related to the 1964 Tokyo Olympic Games:Initiatives by private organizations and local communities	Hideyuki Aoyagi Junko Tahara
Examination of the Effects of Olympic Education at a Sports Museum Utilizing a Problem-Solving Game	Kohei Ishihara Tsukasa Kawanishi Kanako Ito Takuya Inomo Yuichi Ebisuya Kyoko Raita
Historical analysis of the bodily representation of female athletes: Kinue Hitomi's "prone episode"	Futa Suzuki
Three Bon Dances: A Legacy of the 1964 Summer Olympics History	Kanako Ito Kyoko Raita
Towards Sustainable Management in Japan's Sports Museums	Yuji Kurihara Sachiko Niina
What is necessary in order to keep the history of the Olympics alive? : A Japanese Case Study	Yasuhiro Sakaue

| 実物資料の例



| 情報資料の例



発表資料より(秩父宮記念スポーツ博物館収蔵資料の一部)

概要

日本国内には数多くのスポーツミュージアムがあるが、各館で所蔵するスポーツ関連資料について、収集・保存・公開に関する方法が確立されておらず、ミュージアム同士の連携も十分ではない、という現状がある。こうしたことから、貴重なスポーツ関連資料が一般に知られることなく、十分に活用されないまま、常に散逸の危機にさらされていると言っても過言ではない。

そこで本連携プロジェクトを進めてきた成果として、スポーツ関連資料を「スポーツ文化遺産」と位置づけて、全国的・横断的なネットワーク「スポーツ博物館連絡協議会（仮称）」を今後立ち上げるキックオフとして、国内の主要なスポーツミュージアム関係者が一堂に会するシンポジウムをオンライン形式で開催し、「スポーツ文化遺産」を適切な形で後世に継承・活用するとともに、スポーツミュージアムを持続的に機能させるための方策について議論した。



● スポーツミュージアムネットワーク シンポジウム

メッセージ

室伏広治氏（スポーツ庁・長官）

令和2年10月に就任された室伏広治スポーツ庁長官から、シンポジウム開催に際してメッセージをいただいた。スポーツ庁として国民がスポーツを通じて心身ともに健康で文化的な生活を営む社会を実現できるように努めていることを踏まえ、スポーツミュージアムが一体となって、国民の皆様がスポーツの歴史や過去の大会のレガシーに関心を持てるような取組を行っていくことへの期待を語っていただいた。また、秩父宮記念スポーツ博物館が所蔵している日本最古のハンマーの実物を実際に手にされ、スポーツの歴史に思いを馳せ、国民の皆様がスポーツに関心をもつきっかけづくりを展開していくことの重要性を指摘された。



基調講演

「スポーツミュージアムの可能性」栗原祐司氏（京都国立博物館・副館長）

以下の点について講演が行われた。

1. 日本のスポーツミュージアム（博物館）と資料の現状

現在、スポーツ資料を扱う施設が各地に複数存在し、その展示や運営の方法は多岐にわたる。しかし、一方でスポーツ分野の専門職員の不在、それに伴う資料の保存や管理が不十分という問題が生じている。

2. スポーツ遺産の可能性

現在、建造物及び民俗分野を中心に、有形・無形文化財の登録が進んでいるが、近代スポーツに関する分野での登録はない。日本のスポーツ資料を体系的に整理・分類し、価値づけを進める必要がある。

3. 国際的なネットワークの可能性

①スポーツ資料の目録・データベース化の構築、②遺産登録を目指した検討、③館の連携ネットワークの構築が課題である。秩父宮記念スポーツ博物館が中核となり、ミュージアムネットワークを構築し、資料の保存・活用を進め、海外との交流を図ることが重要だ。

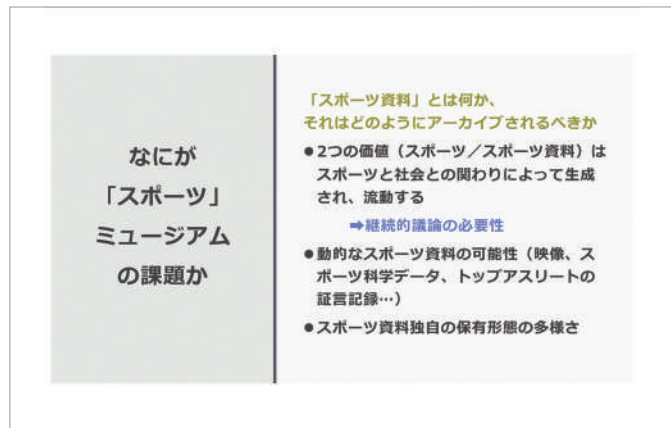
種別博物館数									
	歴史	美術	科学	総合	植物園	野外	動物園	水族館	動植物園
登録	331	359	68	131	2	10	5	8	—
914									
相当施設	139	94	36	23	9	6	29	30	6
372									
類似施設	2,858	616	350	318	101	91	59	43	16
4,452									
計	3,328	1,069	454	472	112	107	93	81	22
(構成比)	58.0%	18.6%	7.9%	8.2%	2.0%	1.9%	1.6%	1.4%	0.4%
5738館(100%)									
(平成30年度社会教育調査)									



パネルディスカッション

「スポーツミュージアムの人材育成に向けた連携と展望」

本連携プロジェクトの参画館がオンラインで集合し、パネルディスカッションを行った。最初に中京大学スポーツ科学部教授の来田享子が話題を提供し、中京大学スポーツミュージアムの伊東佳那子、札幌オリンピックミュージアムの山谷和正、長野オリンピックミュージアムの田口和男、日本オリンピックミュージアムの下湯直樹が、秩父宮記念スポーツ博物館の新名佐知子の進行により主に以下の3点のテーマについて意見を交わした。



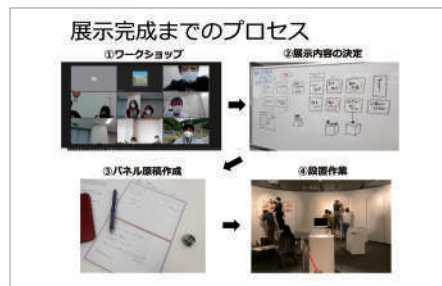
来田享子（中京大学スポーツ科学部）発表資料



山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）発表資料



下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）発表資料



伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）発表資料



田口和男（長野オリンピックミュージアム）発表資料

スポーツ資料の紹介

秩父宮記念スポーツ博物館収蔵庫オンラインツアー

シンポジウムの最後には、オンライン配信の会場であった秩父宮記念スポーツ博物館の収蔵庫内で、ボール、陸上競技の槍、体操競技の鞍馬などの競技用具、1964年東京オリンピックの大会運営資料、旧国立競技場のマンホールを紹介するライブ配信を行った。

スポーツ関連資料の種類や素材の特性、資料保存上の課題を解説し、今後、スポーツ文化遺産の適切な継承・活用の議論に向けて、シンポジウム参加者がスポーツ関連資料に関心を持てるよう努めた。



2 人材育成プログラムの構築



展覧会準備の指導風景（2020年12月16日、中京大学）

概要

スポーツミュージアム間の連携ネットワークを構築する上で、コレクションに対する知見や保存、公開の方法等を共有していく専門学芸員の配置が不可欠である。そこで、スポーツ資料に関する知識や経験をもつ人材を育成し、持続可能な場を構築することを目的に計画したのが本事業である。

事業は、中京大学現代社会学部国際文化専攻科目文化人類学実習の2020年度履修生12名を対象にしたプログラムとして計画された。内容は、学生たちがスポーツミュージアムについて調査し、その成果を展覧会の形で発表するという一連の実習である。

第一の「調査」は、本連携プロジェクトの参画館（中京大学スポーツミュージアム、日本オリンピックミュージアム、札幌オリンピックミュージアム、長野オリンピックミュージアム、秩父宮記念スポーツ博物館）を対象にしたプログラムである。各館のスタッフから聞き取りを行い、展示内容や所蔵資料、施設や業務の特徴などの違いを学ぶ体験となるように企図された。当初は各館を訪問して資料に触れるなどの実地体験を想定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の

影響に鑑み、関係者の移動と対面式事業を大幅に制限し、オンライン会議システムを活用した方法で行った。参画館とのオンライン授業は計3回実施し、ミュージアムの日常業務を紹介するとともに、学生たちとの質疑応答などを行った。

第二の「展覧会」は、前述の調査でまとめた5つの参画館に関する情報に加え、学芸員の仕事を多角的に伝える展示内容で構成・準備された。中京大学スポーツミュージアムを会場に、伊東佳那子学芸員の指導により特別企画展「知ってるようで知らない! 学芸員の世界」展として開催された。展示では、オンライン会議を通じて重ねてきた調査や議論、聞き取りの成果がパネルで展示され、観覧者の好奇心をそそるように工夫された。

実施実績

① 中京大学学生によるワークショップ

第1回 2020年10月28日（水）

形式：オンライン
主会場：中京大学
参加館：中京大学スポーツミュージアム
札幌オリンピックミュージアム
秩父宮記念スポーツ博物館
日本オリンピックミュージアム
長野オリンピックミュージアム
モデレーター：秩父宮記念スポーツ博物館

第2回 2020年11月4日（水）

形式：オンライン
主会場：中京大学
参加館：中京大学スポーツミュージアム
長野オリンピックミュージアム
日本オリンピックミュージアム
札幌オリンピックミュージアム
秩父宮記念スポーツ博物館
モデレーター：秩父宮記念スポーツ博物館
視聴参加：スポーツ芸術協会

② 中京大生による展覧会

展覧会名 「知ってるようで知らない! 学芸員の世界」

会期：2021年1月21日（木）～
会場：中京大学スポーツミュージアム

③ 会議

2020年8月7日（金）

来田享子（中京大学）
伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
木村一貫・新名佐知子・青木祐一（秩父宮記念スポーツ博物館）

2020年9月3日（木）

来田享子（中京大学）
伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）
山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）
田口和男（長野オリンピックミュージアム）
木村一貫・新名佐知子・青木祐一・須藤順子・清水邦俊・河合優利佳
笹沼亜紀子（秩父宮記念スポーツ博物館）

2020年10月22日（木）

伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）
山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）
木村一貫・新名佐知子・青木祐一・須藤順子・清水邦俊
河合優利佳・笹沼亜紀子（秩父宮記念スポーツ博物館）

第3回 2020年12月9日（水）

形式：オンライン
主会場：中京大学
参加館：札幌オリンピックミュージアム
秩父宮記念スポーツ博物館
モデレーター：秩父宮記念スポーツ博物館

2020年10月27日（火）

来田享子（中京大学）
伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
田口和男（長野オリンピックミュージアム）
木村一貫・青木祐一・清水邦俊（秩父宮記念スポーツ博物館）

2020年11月26日（木）

伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）
下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）
山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）
田口和男（長野オリンピックミュージアム）
木村一貫・新名佐知子・青木祐一・清水邦俊
（秩父宮記念スポーツ博物館）

概要

本事業では、中京大学でスポーツ科学を学ぶ学生たちの授業の場をお借りして、スポーツミュージアムの日常的な業務を紹介するとともに学生たちからの質問を受けるなどの対話を行った。

成果と課題

3度にわたる中京大学における文化人類学実習のオンラインでの授業を通し、その成果と反省点について議論した。

中京大学からは、学生には受講前に前述5館に関する調査を課しており、各館に関する予備知識がある状態でのオンライン授業は、彼らが学芸員の業務や現状を学ぶうえで役立ったとの感想があった。また、授業を通し、学芸員という職業に対して、学生たちが興味を示していたとの意見も報告された。

本事業の参画館からは、オンラインでの授業にむけた教材作成を経験したことにより、「スポーツ」という分野における学芸員や博物館の繋がりや連携を見通す良い契機を得られたことを実感した、との意見が挙げられた。

参加したのは、中京大学スポーツミュージアムをはじめ、日本オリンピックミュージアム、札幌オリンピックミュージアム、長野オリンピックミュージアム、秩父宮記念スポーツ博物館である。

コロナ禍という未曾有の事態での試みとなった今回のプロジェクトは、従来のように資料実物に触れることができないなどの制約が多々あったものの、人材育成や教育普及といった点において大きな役割を果たせたといえる。

ネット環境を整えることを前提とするものの、今回の試みが今後の大学における学芸員養成課程授業において、スポーツミュージアムをはじめとする専門博物館の魅力を伝え、人材育成の分野における一助となることが期待される。



オンライン授業での聞き取りから学生が作成したパネル

中京大学の学生とスポーツミュージアムのオンライン授業の様子



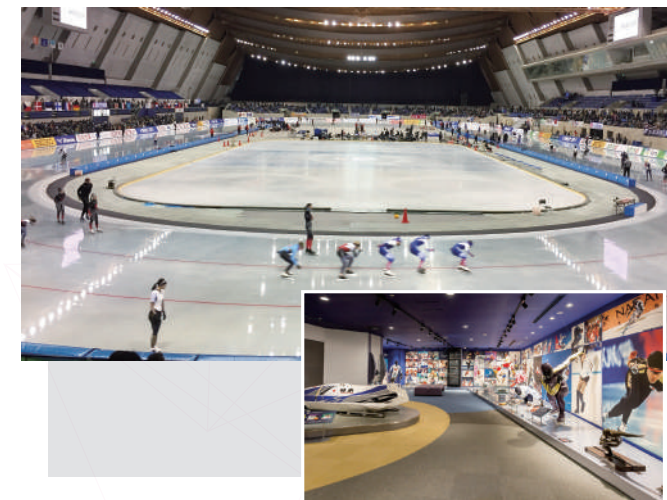
札幌オリンピックミュージアムの紹介資料より



秩父宮記念スポーツ博物館の紹介資料より



長野オリンピックミュージアムの紹介資料より



日本オリンピックミュージアムの紹介資料より



概要

中京大学の学生たちと本事業の参画館5館がオンライン授業を行い、学生たちは、各ミュージアムの展示や収蔵資料の特徴を学び、同時に「学芸員」の日常的な仕事や課題について関心を深め、議論を重ねた。その成果は、伊東佳那子学芸員が指導する現代社会学部国際文化専攻科目「文化人類学実習」の中で、

展示会名 特別企画展「知ってるようで知らない!学芸員の世界」

会場：中京大学スポーツミュージアム

会期：2021年1月21日（木）～

協力：秩父宮記念スポーツ博物館、日本オリンピックミュージアム、札幌オリンピックミュージアム、長野オリンピックミュージアム

趣旨：学芸員とは、どのような仕事でしょうか。

博物館は、歴史や自然科学、考古学、民俗、美術などそれぞれに専門のテーマを持ち、資料の収集や展示等を行っています。各館には、これらのテーマを専門にする学芸員がいます。

博物館について規定した法律「博物館法」第4条には、「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」とあります。学芸員が担う仕事は、館のテーマや学芸員数などによって異なりますが、その内容は多岐にわたります。

展示会として発表された。

会場の中京大学スポーツミュージアムには、各館の協力により制作されたパネルや、学芸員の仕事を触覚的に伝える体験型の展示物、各参画館職員の日常業務をドキュメンタリー動画にまとめた映像などが展示された。

日本には 8,403 名の学芸員がいるといわれています（文化庁、平成 30 年現在）。また全国の約 38%の大学では、学芸員養成課程が開講されています。しかし、学芸員の認知度はあまり高いとは言えず、学芸員が日々の業務内容や取り組みなどについて周知されていない現状があります。

そこで第3回特別企画展では「学芸員」を展示テーマに、仕事の魅力や、スポーツを専門とした博物館ならではの特徴を紹介します。本展示を通じて、博物館やそこで働く人々への興味や関心、理解が深まることを願っています。

学生のレポートから(抜粋)

スポーツ博物館の経営にはスポーツ選手をはじめ学芸員や多くの人々が携わっており、今回その一員となって、この世界の情報を他者へと繋ぐ役割を担えたことがいい経験になったと思います。調査を行い、その調査対象の魅力や特徴を理解し表現する過程で、学芸員の視点や来場者の視点からスポーツ博物館に理解を深めることができました。

（高木 瑛怜菜）

他館調査の際選手や競技の展示はもちろんながら、シミュレーションゲームなどスポーツを体験できるミュージアムが多いことに感動を受けた。さらに元オリンピック選手などが時間を作り実際に地域の小さい子供達と交流することで若い世代のうちから子供達のスポーツへの関心をつかもうとする働きが多く感銘を受けた。（大竹 捷介）

4 館全ての博物館に実際に足を運んで行くのは大変だけど、今回オンラインという形で交流の場を設けていただいて、貴重なお話をたくさん聞かせていただくことが出来て、コロナ禍においても有意義な時間を過ごすことが出来ました。1 館だけでなく様々なミュージアムのお話を聞くことで、多くの視点からの学びを得ることが出来たかと思います。（大西 朱音）

他館パネルという企画は、どのようにその館が伝えたいことをくみ取るか、どれだけパネルに反映させることができるか、ということが一つの課題だと思ったので、話を聞くことと、情報を集めることに時間をかけることが大事だと思った。そのことは、今後卒論を制作していくうえで、必要な気づきであったと感じた。

（岡田 さくら）

今回は新型コロナウイルスの流行という歴史的な問題が起こったため、他館調査はすべてオンラインでのものとなり、その点はやはりとても残念だったな、と感じています。オンラインの調査も、短時間に様々な博物館のお話を聞くことができたため、効率がよく、とても有意義な時間となりましたが、直接博物館にお伺いして、実際の展示に触れながら得るものとはまた違ったものがあるのだろうか、とは感じていました。（河村 美月）

秩父宮記念スポーツ博物館、札幌オリンピックミュージアム、長野オリンピックミュージアム、日本オリンピックミュージアムの 4 館とオンライン交流を実施し、前述したように、新しい発見や②で書いた興味等を得ることができました。それは一つの博物館調査を実施するだけではできなかったことだと思います。4 つの博物館のお話を伺うことができた、企画展を共同して実施することができたからこそだと思います。（木村 春紀）

博物館で実施しているワークショップや講座、体験などについて学芸員から詳しく話を聞くことができ、誰にどんな目的を持って実施しているのかを知った。博物館では、次世代を育てるため、オリンピックについて学び共有するため、生涯学習の拠点として学校教育と結びつけるためなど、より多くの人へ幅広い世代の人へ向けて発信し、資料や選手の思い、博物館の魅力は何倍にも高めている場であると感じた。（佐々木 麻友）

札幌オリンピックミュージアムの方が、小学生に向けた講演会を行うことでスポーツやその競技に興味を持ってもらうことで、未来のオリンピック選手を発掘することができるかもしれないとおっしゃっていた時、そこまで考えて講演会などを開いているとは知らなかったのが驚きでした。自分もスポーツをやっていたけど、有名な選手からのお話を聞いていたらもう少し興味を持っていたのではないかなと思いました。（田代 千尋）

コロナ禍において実施しているプログラムのようなものがどういうものでして、実際に成果がでているのか気になりました。また、現在の博物館の就職状況についても知りたいと思った。感じた事として、どの博物館も人員不足には悩んでおり、オリンピックのことについて興味を持って欲しい人たちを増やすために、あれやこれやと試行錯誤して日々努力していることがひしひしと伝わった。（寺田 樹）

秩父宮、札幌、長野、JOM と交流し、各館の紹介や仕事等を調査し、得ることのできた新たな学びは、そもそも私はスポーツミュージアムそのもののイメージがついておらず、右も左も分からない状態であったので、スポーツミュージアムは全国各地にあり、それぞれオリンピックの功績やスポーツの楽しさを学べるどころ、さらにスポーツの面白さを身近で体験できるように、スケートリンクがあったり、競技を体験出来たりと色々な工夫が見られた。（富田 凌）

資料や、情報を収集しわかりやすくパネルに落とし込む難しさを感じた。情報の収集では、どのような質問をするとうまく話が引き出せるのか、また観覧者は何が気になるのかという点を考えなければならなかった。パネル作成では、見やすくするためにイラストを使ったりレイアウトを考えたりと、一つの展示を作るのにどれだけの時間と労力がかかるか身に染みてわかった。（福田 拓馬）

秋学期の講義内で、オンラインで様々な博物館の方々のお話を伺うことが出来て、これまで 3 年間講義でしか知り得なかった学芸員という仕事をより知ることが出来た。さらに、このコロナ禍の中で新たに創り出した展示手法や来館できない方々のための施策等あれば伺ってみたい。文化庁プロジェクトに参画出来てよかった。（山本 悠士朗）

第3回中京大学スポーツミュージアム特別企画展

知ってるようで知らない！

学芸員の世界

1.21 2021 Thu
毎週火～木曜日
10:00～17:00
(最終受付16:00)
豊田キャンパス3号館2階
入場無料

展示解説中

収集品の採寸中

収集品の写真撮影中

この展示ができるまで

本展示は、現代社会学部国際文化専攻科目「文化人類学実習」の履修生12名が作成しました。授業内という限られた時間で、展示テーマについて全員で話し合い、その後グループに分かれパネル原稿の作成を行いました。履修者全員、初めてこの規模の企画展に取り組みましたが、試行錯誤しながらもひとつひとつ丁寧に制作しました。企画展制作の裏側は普段見ることはできませんが、今回はどのように本展示が完成に向かっていったのか、写真とともに紹介します。

展示全体のレイアウトを決定！

パネルの原稿を紙に下書きします

下書きをもとにパネルをPowerPointで作成！

作成したパネルを見直し、誤字脱字などをチェック

パネルを印刷し、パネルに貼ります

パネルや展示物を設置、展示の完成！！

私たちが作りました！
現代社会学部国際文化専攻 2020年度「文化人類学実習」履修者12名

3 スポーツ文化財の 保存・活用方法の確立



所蔵資料調査（2020年12月10日、長野オリンピックミュージアム）

概要

本事業は、国内にあるスポーツ資料が適切に保存され、効果的に活用されるための望ましい環境や方法を確立することを目指すものである。本年度は以下の4つの切り口で現状調査および作業を計画した。

第一に、日本で開催されたオリンピック・パラリンピック大会の所蔵状況調査である。国内のスポーツミュージアムを主な対象として、資料種別を洗い出し、大会資料と関連するエピソードを整理することで、東京2020大会およびその後も開催され続ける大規模スポーツイベントから生まれる大会資料を、整理・活用する方法の確立を目標とした。

第二に、大会資料と関連するエピソードの記録化である。過去の大会運営などに携わった地域の人々に「地域調査員」として参画してもらい、当時の記憶として覚えているエピソードを収集・整理しようというものである。持続可能なミュージアムのケーススタディとして、地域の人々が参加できるスポーツミュージアムの活動を模索し、プログラム化することを目標とした。

第三に、海外におけるスポーツレガシーの継承状況を調査することである。当初は、東京2020大会の類似事例としてロンドン2012大会、リオデジャネイロ2016大会の資料群を対象と考えた。

第四に、スポーツに関わる文化プログラムの情報データベース化である。本事業では、東京2020大会のスポーツ・文化の融合の取り組みのレガシーとして、国内のミュージアムを対象に、東京2020大会の「文化プログラム」をはじめ、スポーツ・文化芸術に関する有用な情報を抽出した。スポーツミュージアムがスポーツ文化を発信する拠点として、今後も「文化プログラム」を継承していく上で基本となる情報の収集活動である。

ただし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、特に移動や対面式の打合せを伴う計画については実施に至らず、次年度の課題として残された。

実施実績

① 国内調査（事業1・2、事務局業務を含む）

A 博物館・ミュージアム

長野オリンピックミュージアム 2020年12月10日(木)

調査者：青木祐一・清水邦俊・河合優利佳
(秩父宮記念スポーツ博物館)

対応者：田口和男・高橋梨沙
(長野オリンピックミュージアム)

たばこと塩の博物館 2021年1月22日(金)

調査者：青木祐一・清水邦俊(秩父宮記念スポーツ博物館)

対応者：青木然氏(学芸員)

B アーカイブズ機関

東京都公文書館 2020年10月2日(金)

調査者：新名佐知子・青木祐一・清水邦俊
(秩父宮記念スポーツ博物館)

対応者：西木浩一氏(統括課長代理)・
太田亮吾氏(専門員)

千葉県文書館 2020年12月4日(金)

調査者：青木祐一・清水邦俊(秩父宮記念スポーツ博物館)

対応者：飯島渉氏(行政文書資料課副主幹)

② データベース調査

- A. 新型コロナウイルス感染拡大によって中止・延期となった文化プログラムに関する調査
- B. 全国にあるスポーツに関連する博物館・資料館・展示コーナーの所在調査
- C. アーカイブズ機関のオリンピック・国体関係資料の所蔵状況概要調査
- D. 2020年度中に中止・延期となった競技大会に関する調査

③ 会議

2020年9月3日(木)

来田享子(中京大学)
伊東佳那子(中京大学スポーツミュージアム)
下湯直樹(日本オリンピックミュージアム)
山谷和正(札幌オリンピックミュージアム)
田口和男(長野オリンピックミュージアム)
木村一貫・新名佐知子・青木祐一・清水邦俊・河合優利佳・
笹沼亜紀子(秩父宮記念スポーツ博物館)

2020年11月12日(木)

来田享子(中京大学)
伊東佳那子(中京大学スポーツミュージアム)
下湯直樹(日本オリンピックミュージアム)
山谷和正(札幌オリンピックミュージアム)
木村一貫・新名佐知子・須藤順子・清水邦俊・河合優利佳
(秩父宮記念スポーツ博物館)

駒沢オリンピック公園総合運動場 2021年1月26日(火)

調査者：新名佐知子・須藤順子(秩父宮記念スポーツ博物館)、
下湯直樹(日本オリンピックミュージアム)

対応者：畠悠理佳氏・井村圭孝氏
(公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団)

埼玉県立文書館 2020年12月11日(金)

調査者：青木祐一・清水邦俊(秩父宮記念スポーツ博物館)

対応者：木村遼之氏(学芸員)

神奈川県立公文書館 2020年12月18日(金)

調査者：青木祐一・清水邦俊(秩父宮記念スポーツ博物館)

対応者：関根豊氏(資料課)

2020年11月26日(木)

伊東佳那子(中京大学スポーツミュージアム)
下湯直樹(日本オリンピックミュージアム)
山谷和正(札幌オリンピックミュージアム)
田口和男(長野オリンピックミュージアム)
木村一貫・新名佐知子・青木祐一・清水邦俊
(秩父宮記念スポーツ博物館)

概要

「新型コロナウイルス感染拡大によって中止・延期となった文化プログラムに関する調査」は、2020 年 1 月から 9 月にかけて開催を予定していたオリンピック関連やスポーツに関する展示の状況について行ったものである。特に現物展示を予定していた展覧会を対象とした。

「全国にあるスポーツに関連する博物館・資料館・展示コーナーの所在調査」は、2020 年 11 月現在で開館・展示コーナーの設置の状況について行ったものである。

「アーカイブズ機関のオリンピック・国体関係資料の所蔵状況概要調査」は、全国の都府県市町村のアーカイブズ機関が

所蔵している 1964 年の東京オリンピック、1972 年札幌冬季オリンピック、1998 年長野冬季オリンピックやパラリンピック、毎年開催している国民体育大会に関する文書の所在状況について行ったものである。このうち現地調査を行ったアーカイブズ機関は前掲の通りである。

「2020 年度中に中止・延期となった競技大会に関する調査」は 2020 年 1 月から 12 月にかけて開催予定であった国内の大会について行ったものである。調査対象は、オリンピック・パラリンピック競技種目に加えて、協会や協議会を設けている種目とし、各世代の大会について行った。

表1 「2020 年度中に中止・延期となった競技大会に関する調査」

種 目	中止・延期	大 会 名	予定されていた開催期間
陸上競技	中止	サトウ食品日本グランプリシリーズ 熊本大会 第 29 回金栗記念選抜陸上中長距離大会 2020	2020/4/11
陸上競技	中止	第 104 回日本陸上競技選手権大会 50 km 競歩 兼 東京 2020 オリンピック男子 50km 競歩日本代表選手選考競技会 第 59 回全日本競歩輪島大会（斉藤和夫杯：男女全日本 10km 競歩）	2020/4/12
陸上競技	中止	サトウ食品日本グランプリシリーズ プレミア 神戸大会 第 68 回兵庫リレーカーニバル アジア陸連パーミット大会 2020 東京 2020 オリンピック競技会 日本代表選手選考競技会	2020/4/19
陸上競技	中止	サトウ食品日本グランプリシリーズ 出雲大会 吉岡隆徳記念第 74 回出雲陸上競技大会	2020/4/19
陸上競技	中止	第 22 回長野マラソン	2020/4/19
陸上競技	中止	サトウ食品日本グランプリシリーズ プレミア 東京大会 TOKYO Combined Events Meet 2020 兼 東京 2020 オリンピック競技会 日本代表選手選考競技会 兼 ナイロビ 2020 U20 世界陸上競技選手権大会 選考競技会・参考競技会 兼 第 83 回東京陸上競技選手権大会（混成競技）	2020/4/24 ~ 26
陸上競技	中止	第 10 回記念 高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン	2020/4/26
陸上競技	中止	サトウ食品日本グランプリシリーズ プレミア 広島大会 第 54 回織田幹雄記念国際陸上競技大会 World Athletics Continental Tour -Bronze- アジア陸連パーミット大会 2020 東京 2020 オリンピック競技会 日本代表選手選考競技会	2020/4/29
陸上競技	中止	サトウ食品日本グランプリシリーズ プレミア 静岡大会 第 36 回静岡国際陸上競技大会 World Athletics Continental Tour -Bronze- アジア陸連パーミット大会 2020 東京 2020 オリンピック競技会 日本代表選手選考競技会	2020/5/2
陸上競技	中止	サトウ食品日本グランプリシリーズ 延岡大会 第 31 回ゴールデンゲームズ in のべおか	2020/5/4
陸上競技	中止	サトウ食品日本グランプリシリーズ 水戸大会 2020 水戸招待陸上	2020/5/5
陸上競技	中止	READY STEADY TOKYO- 陸上競技	2020/5/5 ~ 6
陸上競技	中止	第 30 回仙台国際ハーフマラソン大会	2020/5/10
陸上競技	中止	2020 日本学生陸上競技個人選手権大会	2020/6/5 ~ 7

陸上競技	中止	サトウ食品日本グランプリシリーズ 鳥取大会 布勢スプリント 2020	2020/6/7
陸上競技	中止	第 35 回サロマ湖 100km ウルトラマラソン	2020/6/28
陸上競技	中止	2020 函館マラソン	2020/7/5
陸上競技	中止	第 60 回実業団・学生対抗陸上競技大会	2020/7/18
陸上競技	延期	第 32 回オリンピック競技大会（2020 / 東京）	2020/7/31 ~ 8/9
陸上競技	中止	第 73 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会	2020/8/12 ~ 8/16
陸上競技	中止	第 55 回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会	2020/8/13 ~ 8/15
陸上競技	中止	第 47 回全日本中学校陸上競技選手権大会	2020/8/17 ~ 8/20
陸上競技	中止	第 55 回全国高等専門学校体育大会陸上競技	2020/8/22 ~ 8/23
陸上競技	中止	第 28 回日・韓・中ジュニア交流競技会	2020/8/23 ~ 8/29
陸上競技	延期	第 41 回全日本マスターズ陸上競技選手権大会	2020/10/2 ~ 10/4
陸上競技	延期	第 75 回国民体育大会	2020/10/9 ~ 10/13
陸上競技	中止	第 32 回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2020/10/11
陸上競技	中止	第 59 回全日本 50 km 競歩高島大会	2020/10/25
陸上競技	中止	第 36 回東日本女子駅伝	2020/11/8
陸上競技	中止	第 10 回神戸マラソン	2020/11/15
陸上競技	中止	第 10 回大阪マラソン	2020/11/29
陸上競技	中止	2020 長崎陸協競歩大会	2020/12/13
陸上競技	中止	第 28 回全国中学駅伝大会	2020/12/20



ポスター（「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史、巡回展開催）



ポスター（第 22 回長野マラソン、開催中止）

概要

本事業の 3 つ目の柱として、国内にあるスポーツ資料を適切に保存し、効果的に活用するための望ましい環境や方法を確立することを目指した。新型コロナウイルスの感染拡大で現地調査が困難となったため、事業 1・2 および事務局業務の機会を利用しながら実施した。

本年度は特に、日本で開催されたオリンピック・パラリンピック大会（東京、札幌、長野）及び各都道府県で開催された国民体育大会に関する資料調査を行った。国内の関係機関を対象に、大会関係資料の所蔵傾向を分析することにより、東京 2020 大会およびその後も開催され続ける大規模スポーツイベントから発生する大会資料群を、適切に収集・整理・活用する方法の確立を目標とした。

ミュージアム機関として、長野オリンピックミュージアム（長野県長野市）、東京オリンピックメモリアルギャラリー（東京都世田谷区）、たばこと塩の博物館（東京都墨田区）を訪問し、オリンピック・パラリンピック及び国体関係資料の所蔵状況を調査した。

アーカイブズ機関として、東京都公文書館、千葉県文書館、埼玉県立文書館、神奈川県立公文書館を訪問調査した。その結果、各館には大会の招致から施設整備、大会運営等に関わる文書資料とともに、写真・映像記録や大会マスコット等の実物資料など、幅広い資料の広がり確認された。

また、本事業の構成館である、中京大学スポーツミュージアム、日本オリンピックミュージアム、札幌オリンピックミュージアム、長野オリンピックミュージアム、秩父宮記念スポーツ博物館の 5 館で、3 回にわたり、各館の資料所蔵状況や活用方法に関するオンラインによる意見交換をおこなった。

調査を通じて明らかになったことは、どのようなものがスポーツ資料に該当するのか、という定義が各館において定まっておらず、必ずしもまとまった資料群として認識されているわけでないという状況であった。今後の調査分析により、スポーツ資料という資料カテゴリーの確立が望まれる。



千葉県文書館（国体関係文書）



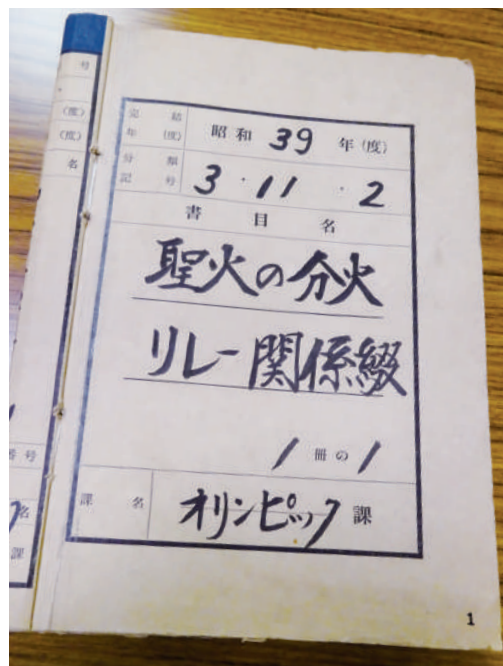
埼玉県立文書館（オリンピック関係文書）



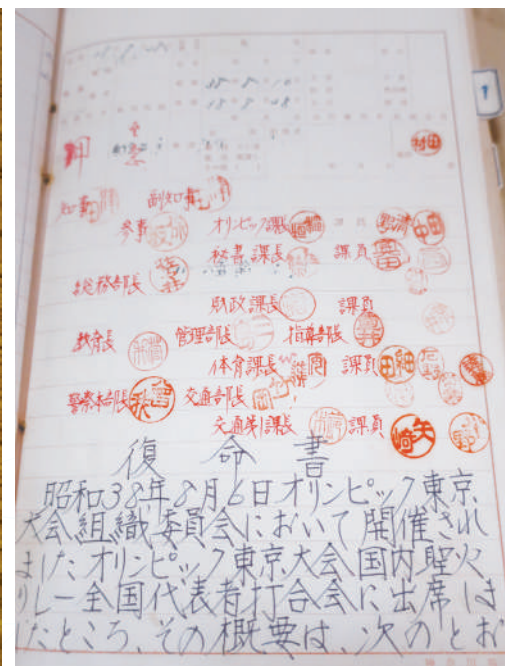
秩父宮記念スポーツ博物館（資料デジタル化撮影作業）



東京都公文書館（組織委員会議事録）



神奈川県立公文書館（オリンピック関係文書）



神奈川県立公文書館（オリンピック関係文書）



埼玉県立文書館（国体マスコット「コバトン」）



長野オリンピックミュージアム（オリンピックマスコット）

おわりに

本連携プロジェクトは、スポーツミュージアムに係る連携ネットワークの構築に向けた取り組みとして、スポーツに関する資料の収集、保存、公開に関する方法論の確立を目指し、①スポーツミュージアムのネットワーク化、②スポーツミュージアム人材育成プログラムの構築、③スポーツ文化財の保存・活用方法の確立の3つの事業を実施した。

①については、国際学会での発表とシンポジウムの開催により、各スポーツミュージアムの情報共有やこれからの展望について議論した。②については、構成団体の現場当事者や大学生がスポーツミュージアムの日常業務や資料をとりまく現況を共有し、スポーツミュージアムならではの業務の特性について考えることができた。③については、スポーツミュージアムに限らず、文書館や歴史系博物館等、これまで連携の機会の少なかった施設等に積極的にアプローチし、首都圏を中心にスポーツ文化財の所蔵調査（現場ヒアリング）を行った。一方で、スポーツ資料という概念が一般に浸透していないこと、また、資料の収集・保存、活用に関する専門知識が確立されていないことが再確認できた。このことから、スポーツ資料の収集・保存、活用に係る、持続可能なスポーツミュージアムの連携ネットワークの構築が急がれ、本連携プロジェクトの継続的な実施が必要であるとの認識を共有できた。

最後に、本連携プロジェクトの実施にあたり、多くの方々のご協力を賜りました。ここに記し、感謝の意を表します。

青木 然 飯島 渉 井村 圭孝 太田 亮吾 木村 遼之
栗原 祐司 関根 豊 田中 仁 中山 勇樹 西木 浩一
畠 悠理佳 藤原 徹 渡辺 栄希

神奈川県立公文書館 スポーツ庁
株式会社金由 たばこと塩の博物館
駒沢オリンピック公園総合運動場 千葉県教育庁教育振興部文化財課学芸振興室
埼玉県立文書館 千葉県文書館
株式会社シーファイブ 円谷幸吉メモリアルホール
昭和館 東京都公文書館
須賀川市生涯学習スポーツ課 長野マラソン大会組織委員会事務局

※敬称略、五十音順

I 組織

構成団体

独立行政法人日本スポーツ振興センター 秩父宮記念スポーツ博物館	株式会社エムウェーブ（長野オリンピックミュージアム）
独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館	特定非営利活動法人 日本スポーツ芸術協会
公益財団法人日本オリンピック委員会 日本オリンピックミュージアム	中京大学スポーツミュージアム
株式会社札幌振興公社（札幌オリンピックミュージアム）	

実行委員会

役職	氏名	団体名、職名
会 長	大 東 和 美	独立行政法人日本スポーツ振興センター 理事長（令和2年8月1日～12月31日）
	芦 立 訓	独立行政法人日本スポーツ振興センター 理事長（令和3年1月1日～）
副会長	銭 谷 眞 美	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館 館長
	井 上 洋 一	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館 副館長
委 員	今 泉 柔 剛	独立行政法人日本スポーツ振興センター 理事（令和2年8月1日～9月30日）
	松 坂 浩 史	独立行政法人日本スポーツ振興センター 理事（令和2年10月1日～）
	松丸喜一郎	公益財団法人日本オリンピック委員会 副会長
	山 谷 和 正	株式会社札幌振興公社（札幌オリンピックミュージアム）学芸主任
	田 口 和 男	株式会社エムウェーブ（長野オリンピックミュージアム）総務企画部長
	黒 川 光 隆	特定非営利活動法人日本スポーツ芸術協会 理事長
	來 田 享 子	中京大学スポーツ科学部 教授
監 事	相 原 茂 明	特定非営利活動法人日本スポーツ芸術協会 事務局長

事業実施担当

須藤順子、新名佐知子、木村一貫、青木祐一、清水邦俊、河合優利佳（秩父宮記念スポーツ博物館）
下湯直樹、榊淵彰太郎（日本オリンピックミュージアム）
山谷和正（札幌オリンピックミュージアム）
田口和男、高橋梨沙（長野オリンピックミュージアム）
來田享子（中京大学スポーツ科学部）
伊東佳那子（中京大学スポーツミュージアム）

事務局

事 務 局 長 河村弘之（秩父宮記念スポーツ博物館 館長）
事務局次長 須藤順子（秩父宮記念スポーツ博物館 主幹）
事 務 局 員 新名佐知子、木村一貫、青木祐一、笹沼亜紀子、清水邦俊、河合優利佳（秩父宮記念スポーツ博物館）

『スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト 実績報告書』
(令和2年度 文化庁 文化芸術振興費補助金 地域と共働した博物館創造活動支援事業)

編集：スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト実行委員会事務局

発行者：スポーツミュージアムの連携によるスポーツレガシーの継承・啓発プロジェクト実行委員会

〒120-0005 東京都足立区綾瀬 6-11-17
秩父宮記念スポーツ博物館内
Tel: 03-5849-5400 / Fax: 03-3629-1660

発行日：2021年3月22日

デザイン・印刷：株式会社レベルフォーデザイン

長野市オリンピック記念アリーナ・エムウェーブ (2020年12月10日)